

※同時記者発表 高松サンポート記者クラブ／徳島県政記者クラブ／阿南市政記者クラブ

令和元年6月18日
四国地方整備局
徳島県

『那賀川水系河川整備計画（変更案）』を公表します。

- ◆国土交通省四国地方整備局と徳島県は、戦後最大流量を記録した平成26年8月洪水（台風11号）により深刻な浸水被害が発生していること、さらに、近年の頻発する洪水の激化や将来の気候変動の状況等を踏まえ、平成26年8月洪水と同規模（年超過確率1/50規模）の洪水を安全に流下させることを治水目標とした『那賀川水系河川整備計画（変更原案）』を平成31年4月15日に公表しました。
- ◆その後、「第13回 那賀川学識者会議」（平成31年4月16日開催）をはじめ、「住民の意見を聴く会」、「公聴会」、「パブリックコメント」により流域住民の皆様から多様なご意見を頂き、可能な限り反映した『那賀川水系河川整備計画（変更案）』を作成し、「第14回 那賀川学識者会議」（令和元年6月11日開催）で意見をお伺いしました。
- ◆このたび、那賀川水系河川整備計画（変更案）を公表するとともに、河川法に基づく関係県知事の意見聴取や関係機関との協議を開始します。
- ◆那賀川水系河川整備計画（変更案）及び、いただいたご意見に対する四国地方整備局及び徳島県の考え方は、下記ウェブサイトからご確認いただけます。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakagawa/seibikeikaku/rlhenkou/henkouan.html>

◆総合的なお問い合わせ

国土交通省 四国地方整備局

河川部 河川計画課 建設専門官 黒田 稔生

TEL (087) 811-8317 (内線3613)

◆整備計画の変更に関するお問い合わせ

◇国管理区間に関すること

国土交通省 四国地方整備局

那賀川河川事務所 副所長 清水 敦司

◎調査課長 青木 朋也

◎主な問い合わせ先

TEL (0884) 22-6562 (内線351)

◇県管理区間に関すること

徳島県 県土整備部 河川整備課 課長補佐 香川 忠司

TEL (088) 621-2570

那賀川水系河川整備計画【変更原案】のポイント!!

那賀川水系河川整備計画【変更原案】では、主に以下に示す1～5の内容を変更します。

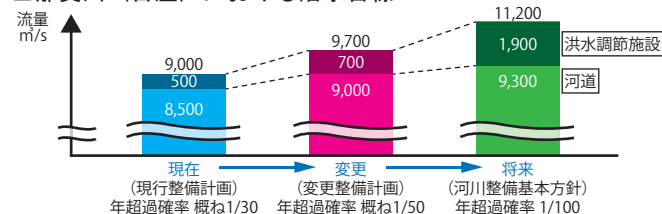
1 戦後最大流量規模の洪水を安全に流下させるため、目標流量を変更します!

今後の河川整備の内容を定める整備計画では、戦後最大を記録した平成26年8月台風11号規模の洪水を安全に流下させるため、年超過確率1/50の治水対策を行います。

なお、整備計画における目標流量は、古庄地点で9,000m³/sから9,700m³/sに引き上げます。

このうち、洪水調節施設により700m³/sを調節して、9,000m³/sを河道で流せるようにします。

■那賀川（古庄）における治水目標



2 上流域では、ダム再生に向けて調査・検討を行います!

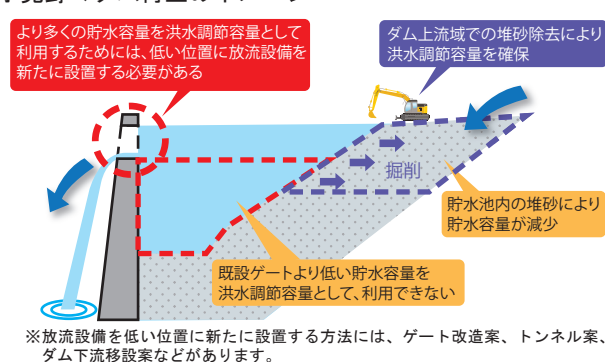
現在、長安ロダムは、洪水調節容量を1,096万m³から1,200万m³に増強するため、ゲートの新設を行っています。

今後、この新しいゲートを最大限に活用するため、予備放流水位（洪水を待ち構える水位）をさらに下げる検討を行い、洪水調節容量を増やします。

また、既設小見野々ダムの上流域では、堆砂除去により貯水容量を増やし、放流設備を新設することで、新たに洪水調節容量を確保します。

なお、既設小見野々ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保することについては、施設管理者と協議して各種調査・検討を行います。

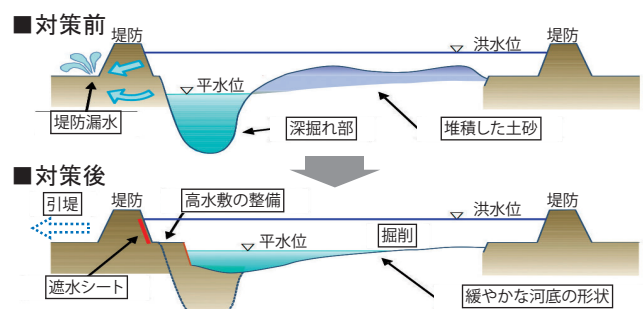
■小見野々ダム再生のイメージ



3 下流域では、堤防を強化したうえで、洪水疎通能力を増大します!

無堤部の築堤を進めるとともに現在の洪水疎通能力を維持するため、洪水流によって堤防が削られたり、漏水によって堤防が崩れないように、河床に堆積した土砂を利用し、高水敷を整備したり、水を透しにくい堤防構造にするなどして堤防を強化します。

現在の洪水疎通能力目標を8,500m³/sから9,000m³/s（古庄地点）に増大させるため、河道掘削などを行うことに加え、吉井堤防の再整備（引堤）の実施に向けて調査・検討を行います。



4 気候変動により激甚化・頻発化する洪水に対応します!

近年、気候変動により全国各地で施設の能力を上回る洪水が発生し、今後もその頻度が高まること予想されます。そのため水害を「我がこと」としてとらえ、「施設能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」と意識を変革する必要があります。

そのため、「那賀川水系大規模氾濫減災協議会」を通じて、関係機関等と情報共有や連携を図り、ハード対策とソフト対策を一体的に推進し、水防災意識社会の再構築等により、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指します。

5 砂レキが復活し、清流が流れる川づくりを目指します!

流域で発生している大規模な土砂災害、ダム堆砂、瀬・淵の消失、河床低下、レキ河原の減少、海岸侵食など、土砂移動及び土砂管理上の課題を解決するため、総合的な土砂管理を推進します。

土し、洪水の流れによりダム下流に流すことで、瀬・淵が再生し、流れが多様で健全な河川環境を目指します。また、下流域では、アユの生息・生育・繁殖に適した瀬・淵環境の自然を再生するなど、多自然川づくりを推進します。

上流域では、長安ロダム上流に堆積した土砂をダム下流に置

那賀川水系河川整備計画の変更に向けて

那賀川水系河川整備計画【変更原案】に対する 主なご意見と対応のポイント

国土交通省四国地方整備局と徳島県では、今後30年程度の間実施する具体的な河川整備内容である「那賀川水系河川整備計画（以下、整備計画）」を平成19年6月に策定し、河川整備を進めてきました。

このような中、那賀川水系の安全・安心の向上に向け、平成26年8月の戦後最大流量を記録し、深刻な浸水被害が発生していること、主要な治水対策についても完成の目途が立っていること、さらに、近年の頻発する洪水の激化や将来の気候変動の状況を踏まえ、整備計画の治水目標を見直し、整備計画変更原案を作成しました。

このたび、整備計画変更原案に対していただいた皆様からの主なご意見と、そのご意見に対する主な対応を示します。



那賀川水系河川整備計画の基本理念

安全で安心できる那賀川水系の未来が拓ける川づくり

洪水や地震・津波、高潮、濁水に対して心配のない川づくり

河川環境に配慮し、環境に恵まれた川づくり

砂レキが復活し、清流が流れる川づくり

産業が栄える川づくり

相互理解が図られた地域住民による流域づくり

お問い合わせ先

■国管理区間に関すること
国土交通省 四国地方整備局
那賀川河川事務所
〒774-0011 徳島県阿南市領家町室ノ内 390
TEL:(0884)-22-6461 (代)
FAX:(0884)-22-6451

■県管理区間に関すること
徳島県 県土整備部 河川整備課
〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1
TEL:(088)-621-2575 (代)
FAX:(088)-621-2870

那賀川水系河川整備計画【変更原案】に対する主なご意見と対応のポイント

平成31年4月15日に公表した「那賀川水系河川整備計画【変更原案】」に対して、学識経験者の皆様や流域住民の皆様から多様な意見をいただきました。国土交通省・徳島県では、皆様から頂いた貴重なご意見を可能な限り反映した「那賀川水系河川整備計画【変更案】」を作成しました。

【変更原案】に対する主なご意見

1. 戦後最大流量規模の洪水を安全に流下させるための目標流量の変更について	
1	1 目標流量9,700m ³ /s対応の実現性について説明して欲しい。
2. 上流域のダムの再生に向けた調査・検討について	
2	1 小見野々ダムを有効活用するために、貯水池内の堆砂除去を実施するということが、掘削された土砂はどのように処理されるのか。
	2 長安口ダム改造後の効果をさらに発現させるため、予備放流水位をさらに低下させて洪水調節容量を増やすには、どのような調査・検討が必要となるのか。
3. 下流域の堤防を強化したうえでの、洪水疎通能力の増大について	
3	1 吉井地区の堤防の再整備(引堤)は、河道の屈曲等の周辺河道線形と洪水時の流れを十分に考慮した上で、引堤法線を検討することが重要である。
	2 侵食対策として深掘れ箇所を埋めたとしても、洪水で再び掘れてしまうのではないのか。
	3 護岸を補強する際は、補強方法や護岸の構造・材質等を工夫するなど、希少種が再生できるよう配慮して欲しい。
	4 侵食対策として堆砂土砂を掘削する場合、発生した土砂を堤防強化に活用するなど、有効に利用して欲しい。
4. 気候変動により激甚化・頻発化する洪水への対応について	
4	1 地球温暖化を疑う余地がない現状では、温暖化を考慮した治水計画に見直すべきではないか。
	2 施設の能力を超過するような洪水が発生した場合にも、避難時間を確保する上で、ハード対策は重要であることから、整備を迅速に進めて頂きたい。
	3 洪水の危険性が目で見て分かることも必要だと思う。このため、古庄地点の橋脚と同様に、加茂谷橋の橋脚にも氾濫危険水位等の表示ができないのか。
	4 洪水時におけるダム操作等の情報提供や、ダム放流量と下流の被害発生との関係等を事前に情報共有することが必要である。
	5 気候変動による予測不可能性が高まることを考慮すると、単に出前講座や訓練などの実施ではなく、その内容が重要である。那賀川独自の防災訓練や防災学習について記載する必要があるのではないのか。
5. 砂レキが復活し、清流が流れる川づくりについて	
5	1 長安口ダム下流で置土をしているが、川口ダム下流では砂が多く堆積し、レキや大きな石が少ないことから、置土を実施する際は人頭大の石やレキも流して欲しい。
	2 森林管理について、河川管理者としての具体的な取組姿勢を記載してはどうか。河川管理者ができること、できないことを示すことは重要である。
	3 那賀川は、自然と水の美しさと流量を維持しており、自然を活かした観光地として十分なポテンシャルを持っているので、観光地となるようなグリーンインフラを目指すべきである。

ご意見に対する主な対応（考え方）

「ご意見に対する主な対応」の着色した内容は、【変更案】に反映しています。

1	1	【変更原案】では、目標流量9,700m ³ /s対応の実現性及び妥当性について、安全度、コスト、実現性、環境への影響等を踏まえつつ検討しています。なお、検討内容は、学識者会議等で説明するとともに、ウェブサイトで公表します。
	2	【変更原案】では、小見野々ダムの堆砂を除去して容量を再生し、新たに洪水調節機能を確保することとしています。なお、掘削土砂の処理方針については、施設管理者とともに、今後、各種調査・検討を行います。
2	1	新設される洪水吐を活用し、長安口ダム改造後の予備放流水位をさらに低下させることにより、洪水調節容量の増強が可能です。その際に、急激な水位低下による貯水池法面の地すべりが懸念されることから、今後、地すべり等に関する調査・検討を行い、必要な対策を実施します。
	2	河道の屈曲や急縮等の周辺河道線形と洪水時の流れの関係に十分に考慮しつつ、堤防法線に関する調査・検討を行います。
	3	侵食対策を実施する際は、巨石を活用するなど河川環境に配慮しつつ、河岸侵食や再洗掘・再堆積が生じないよう、河床の安定性・持続性等も考慮します。
	4	河川工事等を実施する際には、河川全体の自然の営みや重要種の分布状況等を視野に入れ、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観の保全・創出を基本とする「多自然川づくり」に努めます
3	1	掘削により発生した土砂については、侵食対策として実施する高水敷の整備や浸透対策で行う堤防補強に活用するなど、有効活用方法を検討します。
	2	従来の治水計画は、雨量などの過去のデータをもとに策定していますが、治水施設能力の規模を超える洪水への対応を的確に行うため、今後は、温暖化を考慮した治水計画の検討を実施します。
	3	計画規模以下の洪水に対応することに加え、堤防決壊等により氾濫が発生した場合にも、避難に必要なリードタイムを確保し、被害を最小化するため、ハード対策を計画的に進めます。また、危機管理型ハード対策として、堤防高が不足する区間で決壊までの時間を引き延ばすよう工夫した堤防を概ね3ヶ年で整備します。
	4	洪水時に住民が危険性を認識できるよう、危機管理型水位計や河川監視用カメラを活用した監視体制の充実を図るとともに、橋脚への氾濫危険水位等の表示を検討するなど、分かりやすい水位情報等の提供に努めます。
	5	洪水時には、「川の防災情報」からダム操作等の情報を提供しているほか、氾濫危険水位等に到達した場合に、プッシュ型配信等により防災情報を提供します。また、洪水時には、防災活動のための情報を関係市等に周知するとともに、事前に、避難行動等に着目した「那賀川事前防災行動計画(タイムライン)」を関係市等とともに策定し、共有しています。市町が発表する避難情報に従い迅速な行動をお願いします。
4	1	防災情報の提供については、地域特性や住民のニーズ等を踏まえた出前講座や防災教育・その他イベント等を通じて、防災意識を向上させ、防災知識の理解を深めます。
	2	現在、長安口ダム下流には、様々な粒径の土砂を置土しています。今後下流への影響等を踏まえつつ、引き続き土砂還元する予定です。
	3	森林管理については、河川管理者が主体となって設置した那賀川総合土砂管理検討協議会により決定したモニタリング計画に基づき調査を行うとともに、関係機関と情報共有及び連携を図ります。
5	1	那賀川の河川空間は緑地や運動公園等に利用されており、地域住民のスポーツ、レクリエーションの場、憩いの場となっていることから、今後もこれらの機能が確保されるよう地方公共団体等と連携を図るとともに、自然環境の保全に配慮しながら、適切な河川利用に努めます。
	2	